

プレスリリース

「超高齢社会」に対する高校生による提言

～第 8 回 COINS シンポジウムでの座談会について～

- 1/21(金)13:00 より、第 8 回 COINS シンポジウムを開催。
- 9 年間における COINS の活動成果報告に続いて、座談会「スマートライフケア社会に向けて」を開催。
- 「超高齢社会」について、川崎市立川崎総合科学高校・科学科 2 年生達と COINS 研究者が行ったワークショップについて報告。
- 企業経営者、教育委員会、看護協会、日本科学未来館、大学教員の立場で、今の高校生による「超高齢社会」への提言を考察。

報道関係者 各位

平素は大変お世話になりましてありがとうございます。

文部科学省・科学技術振興機構「センター・オブ・イノベーション (COI) プログラム」の川崎拠点 (COINS) として、2045 年までに「体内病院®」の実現を目指す公益財団法人川崎市産業振興財団 ナノ医療イノベーションセンター(センター長:片岡一則、所在地:川崎市川崎区殿町、略称:iCONM) は、後述の実施要領にて第 8 回 COINS シンポジウムを 1/21 にオンライン開催致します。第一部として公開する 9 年間における COINS 成果報告に続き、第二部では、「スマートライフケア社会に向けて」と題した座談会を行います。

本座談会に際しては、川崎市立川崎総合科学高校科学科(校長:荒井利之 先生、学科長:田代定男 先生、所在地:川崎市幸区小向仲野町)のご協力を得て、昨年 12/13 に同校同科 2 年生全生徒 37 名を対象とした COINS 研究者とのワークショップを実施しました。「体内病院®」が実現する年として定める 2045 年には、40 代として社会の中堅どころとなる彼らに対して「超高齢社会」の問題を自分事として捉えてもらい、自分たちの未来を好転させて欲しいという思いと、「スマートライフケア社会」のコンセプトを引き継ぎ、体内病院を実現させるための人材育成という目的がありました。10 月に別途、超高齢社会についての事前授業を事実ベースで行い基礎知識を養ったあと、彼らには、将来自分たちの暮らしに影響を及ぼすであろう課題について考えておいて頂きました。ワークショップ当日は、6 班に分かれ、各班には、COINS からリーダー役の研究者、ファシリテーター、外国人研究者が入り、まずは、生徒たちが考えて来た「超高齢社会から起こりうる課題」に

ついて、班ごとに内容を深掘りしました。問題点がクリアとなった段階で、次は、その解決策について話し合いました。ここでは、政策的なものには触れず、あくまでも科学技術的な解決策のみにフォーカスしました。そして最終的にまとめたものを、1/21の座談会で発表します。座談会への登壇者は以下の通り（50音順）で、それぞれの立場から高校生たちの提言についてコメントを頂きます。

浅野 敏雄 様（がん研・理事長）・・・企業経営者の立場から

安齋 陽子 様（川崎市教育委員会教育政策室・担当課長）・・・教育の立場から

伊達 雄亮 様（日本科学未来館科学コミュニケーター）・・・市民リテラシーの立場から

田畑 美幸 様（東京医科歯科大学学生体工学研究所・助教）・・・研究者の立場から

堀田 彰恵 様（川崎市看護協会・会長）・・・看護の立場から

「超高齢社会」については、「20XX年問題」などと言われて問題視されてはいるものの、将来、その影響を大きく受けるはずの高校生たちには、はっきりと伝わっていないのが現状です。「将来を知れば知るほど悲観的になる」という言葉も彼らからは聞かれました。しかし、最後は、現実を直視することで、「自分たちが未来を好転させよう」という意気込みに繋がったことは良かったと思っております。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

川崎市立川崎総合科学高校について

工業科の課程5科と理数科の課程1科（科学科）を併せ持つ特色のある高等学校です。

工業科の各学科では専門性の高い授業が学べるようになっています。2年次からは資格取得・就職等をめざすエンジニア・クリエイター系、大学・短大・専門学校の進学をめざす進学サポート系、それぞれの進路にあった学習をします。また、体験学習や課題研究を通して判断力・実践力を高めるとともに、時代の変化に主体的に対応できる人間の育成をめざしています。

科学科は川崎・横浜市内公立高校のなかで、最初に設立された理数科の課程です。理工系難関大学進学を目標に、英語・数学・理科の授業時間を豊富に確保しています。

http://www.kst-h.ed.jp/kst_hp/index.html

シンポジウム実施要領

日 時： 2022年1月21日（金）13:00-17:15

会 場： オンライン（ZOOM ウェビナーを利用）
パブリックビューイング（川崎市産業振興会館）

主 催： 公益財団法人川崎市産業振興財団 ナノ医療イノベーションセンター（iCONM）

後 援： 川崎市

協 力： 川崎市立川崎総合科学高校

言 語： 日本語・英語 ※同時通訳あり

参加費： 無料 ※参加に要する通信料等は各自ご負担ください。

申 込： 事前申込制。遠隔リモート会議システム“ZOOM”を用いた Web 開催となりますので、ご出席には所定の URL が必要となります。1月17日（月）午後5時までに、以下申し込み URL より事前登録をお願い致します。

申し込み URL： <https://coins.kawasaki-net.ne.jp/event/sympo2021.html>

※プログラム詳細は上記 URL よりご覧ください。

公益財団法人川崎市産業振興財団について

産業の空洞化と需要構造の変化に対処する目的で、川崎市の 100%出捐により昭和 63 年に設立されました。市場開拓、研究開発型企業への脱皮、それを支える技術力の養成、人材の育成、市場ニーズの把握等をより高次を実現するため、川崎市産業振興会館の機能を活用し、地域産業情報の交流促進、研究開発機構の創設による技術の高度化と企業交流、研修会等による創造性豊かな人材の育成、展示事業による販路拡大等の事業を推進し、地域経済の活性化に寄与しています。

<https://www.kawasaki-net.ne.jp/>

ナノ医療イノベーションセンターについて

ナノ医療イノベーションセンター（iCONM）は、キングスカイフロントにおけるライフサイエンス分野の拠点形成の核となる先導的な施設として、川崎市の依頼により、公益財団法人川崎市産業振興財団が、事業者兼提案者として国の施策を活用し、平成 27 年 4 月より運営を開始しました。有機合成・微細加工から前臨床試験までの研究開発を一気通貫で行うことが可能な最先端の設備と実験機器を備え、産学官・医工連携によるオープンイノベーションを推進することを目的に設計された、世界でも類を見ない非常にユニークな研究施設です。

<https://iconm.kawasaki-net.ne.jp/>

センター・オブ・イノベーション（COI）プログラムについて

COI プログラムは、文部科学省・科学技術振興機構の下で進められている研究開発プログラムで、将来社会に潜在する課題から、現在取り組むべき異分野融合・連携型の研究開発テーマをバックキャストして設定しています。企業や大学だけでは実現できないイノベーションを産学連携で実現する拠点が全国に 18 か所設立されました。川崎拠点は、その中で唯一、大学でなく地方自治体体系研究所が管理する COI 拠点であり、そこで実施する研究プロジェクトを、COINS（Center of Open Innovation Network for Smart Health）と呼んでいます。

COI: <https://www.jst.go.jp/coi/>

COINS : <https://coins.kawasaki-net.ne.jp/>

2022年1月11日